

「英訳マンガから見る英語表現の一考察：『異世界居酒屋「のぶ」』を事例にして」（第 69 号、令和 8 年 4 月）、1-35 頁

「プロローグ」「1 『異世界居酒屋「のぶ」』と Otherwordly Izakaya “Nobu”」「2 「第 1 話 おでんのじゃがいも」」「3 エピローグ」の順で論じた。「エピローグ」で「この作品は「異世界もの」ではあるが、そのメインとなるのは“a delicious cross-cultural exchange”とあるように、食文化を通じた異世界の人との交流である。『異世界食堂』にも同様な内容があるが、土曜日にしか扉が開かない異世界の洋食食堂「ねこや」では限定された曜日と、扉がアトランダムに出現するため、“sense of wonder” (Adams ix) 感が強い。これに対して『異世界居酒屋「のぶ」』は街に定着した一種、“the third place” (2) になっている点であり、より日常生活に近い存在であることだ。『異世界食堂』と同様に食に対する“sense of wonder”は同様である。女性店員シノブはと料理人のタイショウの存在感はよりも料理の存在感がメインとなっており、初めてその料理を口にしたものの表現などが英語で見事に表現されている。“toriaezunama”は日本人特有の表現だ。(A 5)